



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—FOMCのハト派寄り声明を好感しダウ平均は最高値更新—

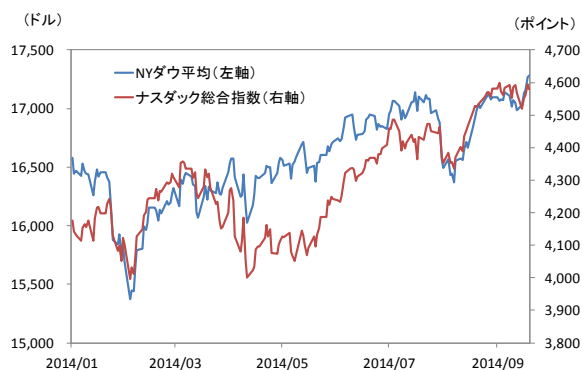
	前週終値	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	16,987.51	17,031.14	17,131.97	17,156.85	17,265.99	17,279.74	+292.23	+1.72%
騰落幅		+43.63	+100.83	+24.88	+109.14	+13.75		
S&P500	1,985.54	1,984.13	1,998.98	2,001.57	2,011.36	2,010.40	+24.86	+1.25%
騰落幅		-1.41	+14.85	+2.59	+9.79	-0.96		
ナスダック総合指数	4,567.60	4,518.90	4,552.76	4,562.19	4,593.43	4,579.79	+12.19	+0.27%
騰落幅		-48.70	+33.86	+9.43	+31.24	-13.64		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場でダウ平均は5営業日連続で上昇し、約2ヶ月ぶりに史上最高値を更新しました。17日に発表されたFOMC（米連邦公開市場委員会）後の声明で、金融政策に対するこれまでの緩やかな姿勢が維持されたことが好感されました。

19日にはソフトバンクが出資するアリババ・グループ（BABA）がNY証券取引所に上場し、公開価格の68ドルに対し初日の終値は93ドルと40%ほど上昇しました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.3	3.0	2.2%
S&P500	16.8	2.7	2.0%
ナスダック総合指数	22.4	3.5	1.1%

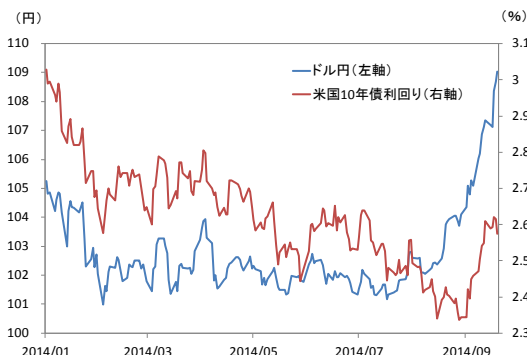
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2014年9月19日時点)

S&P500と予想PERの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

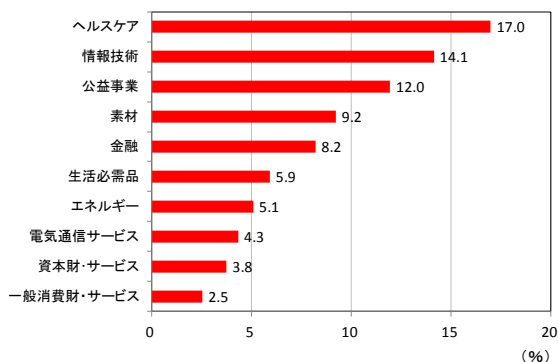
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

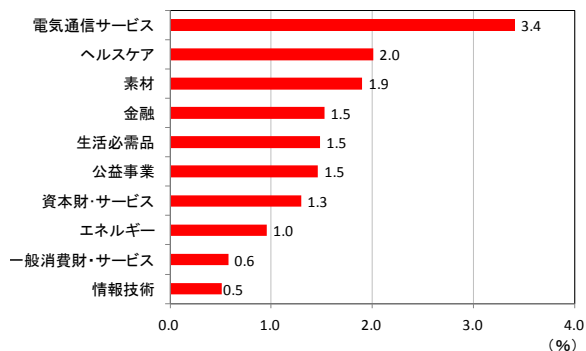
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(9/15-9/19)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌメル	10.0
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	4.0
HD	ホーム・デポ	3.9
PFE	ファイザー	3.3
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	3.3
T	AT&T	2.8
TRV	トラベラーズ・カンパニーズ	2.4
AXP	アメリカン・エクスプレス	2.4
MMM	3M	1.9
BA	ボーイング	1.9

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(9/15-9/19)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CAT	キャタピラー	-2.4
NKE	ナイキ	-0.04

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用 30 銘柄のうち 28 銘柄が上昇しました。デュポン (DD) は大株主が会社分割を要請したことが好感され、週間ベースで 10%と大きく上昇しました。原油価格の下落が嫌気され下落が続いてきたエクソン・モービル (XOM) やシェブロン (CVX) といったエネルギー関連株も反発しました。

<下落>

週間ベースで下落したのはキャタピラー (CAT) とナイキ (NKE) の 2 社にとどまりました。キャタピラーは自社製品の販売が前年比で減少したとの発表を行ったことが嫌気されました。

先週発表された主な経済指標

FOMC（連邦公開市場委員会）結果発表

FOMCの結果が発表されました。事前の予想通り、10月開催のFOMCで国債とモーゲージ債の買い入れの終了が決定される見込みとなりました。また、FOMC後のメッセージとしては「資産購入終了後も相当な期間低金利を維持する」とのこれまでの文言が維持され、イエレン議長の記者会見でも緩和策の維持と今後の対応は経済指標次第であることが強調されたハト派よりの内容でした。株式市場は低金利政策が長期化するとの期待から上昇しました。

メッセージはハト派的な内容でしたが、3ヶ月に1度公表されるFOMCのボードメンバーの今後のFF金利見通しが発表され、前回6月に発表された際よりも来年以降のFF金利のレンジ予想が上昇したことを受けて、債券が売られ長期金利が上昇しました。金利上昇を受けてドルが買われ、ドル円が108円台を突破しました。

日本株にとっては米国株高+円安ドル高と好材料が重なった格好となりました。

今後発表される主な経済指標

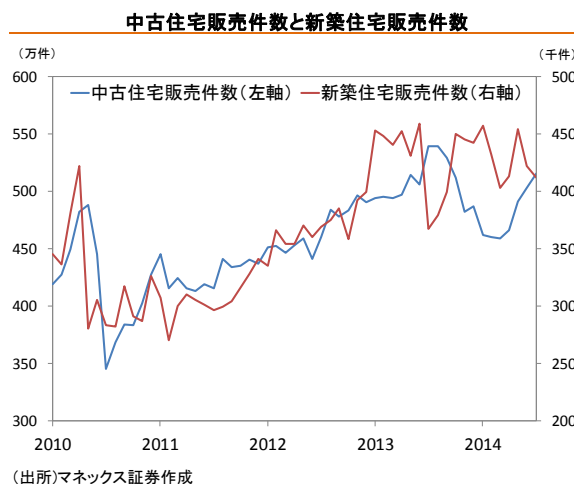
住宅関連指標

22日 8月中古住宅販売件数 市場予想 520万件 前月 515万件

24日 8月新築住宅販売件数 市場予想 43.0万件 前月 41.2万件 ※いずれも年率換算

今週は住宅関連指標の発表が多く、22日には中古住宅販売件数、24日には新築住宅販売件数が発表となります。

どちらの指標も年初から低迷が続きましたが、中古住宅販売件数は春先から持ち直し、先月は昨年夏場以来の水準を取り戻しました。一方新築住宅販売件数は未だもたついている状況で、8月の販売件数に注目が集まります。



マーケットビューー—短期的にやや材料難 短期的には方向感に欠ける展開か—

先週のマーケットビューーでは、米国株式市場は堅調な米国経済のファンダメンタルズを背景として長期的な上昇トレンドを維持する見込みである一方、FOMC 発表を受けたドル売りへの巻き戻しに注意が必要と書きました。結果的に低金利政策維持の長期化期待から米国株は上昇しましたが、FOMC ボードメンバーの来年以降の金利見通しレンジが上昇したことを受け、ドル買いが加速しました。

FOMC を無事に通過したことで、ここから月初の雇用統計や ISM 景況感指数の発表まではやや材料難といった様相です。また、10 月中旬からは徐々に米国企業の決算発表が本格化してきます。これらのイベントを前に、今週は方向感に欠ける展開を予想しています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 165 号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会